



はじめに

神とのエキサイティングな関係を楽しみ始めるにはどうしたらいいのか、人々に分かち合いたいというあなたの願いのなんともめでたいことでしょう。使徒ヨハネはこのことを次のように言いました。「私たちの見たこと、聞いたこと、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。」(ヨハネ1:3~4)

以下の内容は、あなたがスモールグループディスカッションをリードするためのとてもシンプルな方法です。これによって、神さまとクリスチャンライフに関する最も本質的な原則を学ぶことができます。とてもシンプルで取り組みやすい方法ではありますが、ここで採用されている教授法は、多くの人が好む学習スタイルに即してあります。対等な関係で関わり合え、ただ聞くだけでなく語り合うことができ、生きた体験ストーリーから考えることができ、容易で実際の適用をすることができます。

それでは、どのようにこれを始めましょうか？まずは、知恵と確信を祈り求めましょう。実に、神さまは、あなたがグループをリードするために必要なすべてのものを与えることのできるお方です。次に、あなたの友だちをこのグループに誘ってください。みんなに都合の良い時と場所を探して。

一度これにかかわったなら、この教材がとても大きな助けになることに気づくでしょう。12 ページにはパート1の目次、13 ページにはパート2の目次があって、各セッションでどんなことをディスカッションをするのがわかります。全体は6つのテーマから成っており、各テーマには4つのセッションがあります。どのセッションもクリスチャンライフを送っていくにあたって重要な内容をカバーしています。

このリーダーズガイドラインは、この教材を使いやすくするために考案されています。グループディスカッションを活発にするのを助けるため、各セッションには、「グループディスカッションアウトライン」があります。このアウトラインの左側ページは、「セッション準備チェックリスト」となっています。このチェックリストは、あなたのセッション準備を支援します。各セッションには複数の聖書箇所が挙げられており、必要に応じて、どれか一つを学べばいいようになっています。

この「エッセンシャル」シリーズの使用実験において、APPLY と TELL のセッションを重視しないグループリーダーが時々見受けられました。霊的倍加ムーブメントが見られるところでは、生き方が変えられることとイエスについて頻りに話し合うということの2つが顕著であることを覚えて下さい。どのセッションでも、このAPPLY と TELL を重視するようにしてください。

この学びをしてゆくと、しばらくして、グループメンバーの一人一人が自分のスモールグループをリードするように促されることになるでしょう。15 ページには、MULTIPLY についての説明があります。そこでは、だれをチャレンジし、どのようにグループを始めたらいいのかについて学ぶことができます。人生における霊的なインパクトのほとんどは、霊的倍加という弟子化のプロセスを通してやってくるということを心に留めて下さい。第2テーマ2:2でパウロが説明している通りです。

最後に、ほかの何よりも、人々の魂に触れ霊的な成長と霊的な倍加を起こして下さるのは、実に、神さまその方であることを覚えて下さい。よく祈って下さい。そして、神さまが、あなたとあなたのグループメンバーを通して超自然的に働いてくださるよう期待しましょう。

Steve Douglass

President and Chairman of the Board

G3 とは？

Groups of 3 = 弟子訓練グループ・スモールグループ・セルグループ

聖句：ルカ8章1節

「イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。
十二弟子もお供をした。」

私たちの夢：生涯倍加する弟子を(倍加するグループを)日本中に、世界中に満たす

対象：クリスチャン&ノンクリスチャン

人数：3人(2~6人)

時間：60~90分程度(大学の1コマ分でOK)

内容：

(基本形) 3-Reach

In-Reach 互いの心に向かう:心の分かち合い

Up-Reach 神様に向かう:聖書からのディスカッション

Out-Reach 滅び行く魂へ向かう:魂のために働く

具体例

→LTG・ハートチェック

→クルコム・聖書・

→祈り・友達伝道・ランダム伝道・イベント

Key Words：

1. 3人→3名以上から意見交換が活発になり、心の内を話しやすい。(多すぎると逆に困難)
2. 倍加(Multiplication)→G3 の場合は、ノンクリスチャンやクリスチャンが加わり、4~6名にほどになったら分かれていく(Cellは細胞分裂する)。大きくなつては分かれる、を繰り返し増える。
3. ハートチェック→心にあることや悩みを分かち合ったり、LTG(Life transformation group)の質問事項(73ページ)を分かち合ったりして、お互いの心を守り、霊的な成長を助けあう。
4. クルコム→誰でも少々の準備で使える聖書の学び。伝道・祈り・弟子訓練・リーダーシップ・ビジョン・教しなど、様々な内容がある。ネットで落とせる。<http://briefcase.yahoo.co.jp/crucomjp2006>(日本語と英語)



伝道 G3 とは？ Who is Jesus !?

目的：ノンクリスチャンがイエス様を知る

理由：日本人は宗教・文化的な背景や知識の不足から、イエス様を信じる前に親密な雰囲気の中で多くの時間をかけてイエス・キリストや聖書について何度も説明を受ける必要がある場合が多い。G3 のようなスモールグループを通した伝道は日本人がイエス様を知るための戦略として有効。

特徴：定期的に会い続けている
イエスについて語られている
(御言葉を聞き、神について話している。)

教材：エッセンシャルズ『Who is Jesus !?』(God Man Christ Friend)
聖書(一緒に読んで Q&A など)
その他教材(聖書とは、QE など)

始め方(例)：

1. 定期的に会う(出来れば個人的に)
2. 証をしたり、イエス様について話したり、福音を分かち合ったりしてみる。
3. 一緒に聖書を読んでもっとイエス様について知ってみたいかとチャレンジする。

※ 最初は興味がなさそうでも、続けて定期的に会うように心がけてみてください。

『Who is Jesus !?』

主題：イエスとは誰？『神、人、救い主、友達』全4回

用意：聖書、メモ・付箋(聖書箇所やポイントなど)

時間：40分～60分

人数：2～5名(可能ならば3名)

特徴：御言葉を聞きイエスについて自由に語る(Hear)毎回の適用によって心や生活が変えられていく(Apply)

『使い方』

準備：祈る 聖書箇所を選ぶ(付箋やメモが有効) 必要なら質問や例話を考える。

本番：質問し、ディスカッションを導く 聖霊に示されるままに証や詳しい説明をする。

適用：毎回もっと神様に信頼するためのチャレンジを一緒に考える。

『補足』

1. メインはディスカッション。大学生ノンクリスチャンは聖書が理解でき、鋭い意見が出せる。
2. 書だけを用いて、その中心人物のイエスについて見ていく(教材が嫌いなノンクリスチャンでもOK)
3. 短い時間で出来る(調整がしやすいため、忙しい学生でも大丈夫)
4. 聖書的な背景のない日本人でも分かる簡単な内容
5. ファシリテーター向けに、ガイドには少し詳しく説明を載せた。
6. 一生これを用いて、職場や友人関係の中で伝道してほしい。

God

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- ミニディスカッションで、分かち合うための個人的な話を用意した。

HEAR

今回使う箇所・質問を選ぼう。

- ヨハネ1:1~5

1. 「ことば」とは何(誰)のことを指していますか？
2. この箇所からイエスについて何が分かりますか？

- マルコ6:34~44

1. もしあなたがこの奇跡を見ていた弟子たちの一人だとしたら、イエスについてどのように考えたでしょう？

- ヨハネ20:1~18

1. 復活したイエスに会ったとしたらあなたはどんな反応をしますか？
2. イエスが神のような超自然的な性質を示したら(あるいは神であったら)、あなたはイエスに対してどのように反応しますか？

APPLY

- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。
- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。



グループ・ディスカッション・アウトライン

CONNECT with needs:

確認:一人一人調子はどうか尋ねる。

折り:このセッションのために神さまからの知恵を祈る。

導入:「あなたの神様へのイメージはどんなものですか?そのような性質をもった人が『私が神だ』と言ったらどう思いますか?」ミニディスカッション

展開:「今日のテーマは『イエスは神』です。どうしてそんなことが言えるのでしょうか?イエスの人生のどのような点がイエスを神とする証拠になるのでしょうか?」聖書へー

HEAR what God says:以下から必要な2~3箇所を選ぶ

ヨハネ1:1~5>>「ことば」とはイエス・キリストのことです。創世記で神様は言葉によって世界を作りましたが(創世記1章)、それは3節でイエスが世界を作られたことを表しています。イエスは神であり、創造主(クリエイター)であったことが分かります。神様の計画によって、私たちをオリジナルに尊く作ってくれたのは、イエス・キリストです。

マルコ6:34~44>>このときの群衆は男性だけで約5000人女性や子どもも合わせれば1万5000人以上だったと推測されます。イエスが、パンを裂き、感謝をささげ、弟子たちに配る、これは最後の晩餐と同じ動作です。この奇跡はイエスが天から下ってきたパンとして、人々の実際的な必要だけでなく、霊的な必要を満たすことを表しています。

ヨハネ20:1~18>>イエスは3日前(金曜日)に死に、日曜日に生き返った(ユダヤの1日は夕方から始まる)。その後40日地上にいて、兄弟ヤコブや12弟子、他500人以上の人々の前に現れた(第一コリント15章)。イエスが復活したことは、私達が罪から解放されたこと(ローマ6章)、死んでから後復活し永遠の命が与えられることを表しています。

・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。

「この箇所で疑問点や分かりにくいところはありますか?」-これは必ず聞いてあげるべき。

「この箇所は私たちにどんなメッセージを伝えていると思いますか?」「これにどう反応したいですか?」

補足: 聖書の神の特徴は、①主権、②不変性、③永遠性、④偏在性、⑤全知、⑥全能、⑦聖さ、⑧義、⑨愛、などです。他にも、三位一体、創造主、などがあります。神様は聖書や教会を通してご自身のことを現され(特別啓示)、また被造物世界や人の心に書き記された良心をもって全ての人にご自身を現されています(一般啓示:ローマ1~2章)。しかし、人は一般啓示を勘違いし、被造物を見て自分達の想像で神を作り、良心から戒律を作り宗教にしています。

APPLY that to life:

結論:「イエスは神でした。神が人となって地上に来たのです。」

適用:「イエスを神として認め、信頼するのを妨げるものにどんなものがあるでしょう?」「イエスを神として認め信頼するために今週できるアクションの一つあげてみましょう。」

折り:「やってみたいアクション」を分かち合い折りあう。

Man

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- ミニディスカッションで、分かち合うための個人的な話を用意した。

HEAR

今回使う箇所・質問を選ぼう。

- ヨハネ2:13~17 & 11:33~36 & 13:1~7

1. イエスの人としての性質をいくつか見て、イエスに対してどのように思いますか？

- マタイ26:67~75 & 27:26~31

1. イエスが受けた苦しみにはどのようなものがありますか？

2. 神であるイエスが何故わざわざ人としてそのような苦しみや屈辱を受ける必要があったと思いますか？

- ピリピ2:6~8

1. イエスはどんなことをしたと書いてありますか？

2. イエスがこれらのことをしたのは何故だと思いますか？何故わざわざ神が人となってこの世に来なくてはならなかったのですか？

APPLY

- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。
- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

確認:一人一人調子はどうか、「Apply」はどうだったか尋ねる。

祈り:このセッションのために神さまからの知恵を祈る。

導入:「どのような人を信頼できますか?良い関係を築くために何が必要ですか?」ミニディスカッション

展開:「今日のテーマは『イエスは神でありながら人でもあった。』ということです。イエスはどのような人としての性質があったのでしょうか?それは何を意味するのでしょうか?」聖書へー



HEAR what God says: 以下から必要な2~3箇所を選ぶ

ヨハネ2:13~17&11:33~36&13:1~7>>イエスは、怒り(御心のままに)、憤り、涙を流した。また積極的
に愛を示そうとし、神でありながら人に仕えた。イエスは人として、ひとつの罪もない歩をし、洗礼を受けるなどクリス
チャンの歩みの見本を示した。

マタイ26:67~75&27:26~31>>イエスは、弟子に見捨てられ裏切られました。辱めを受け、つばを吐きか
けられ、からかわれました。そして苦痛の余り息絶えることもある鞭打ちの刑にあいました。そして無罪にもかかわらず、恐ろしい苦痛を伴う方法で殺されました。私たちが経験する以上に、心の痛みも、肉体的な痛みも、経験してい
るのです。

ピリピ2:6~8>>イエスが人として地に來られた理由として①罪の身代わり死にため、②クリスチャンとしての
歩みの見本を示すため、③人に近づき理解し愛するため、など他にもたくさん理由があります。

・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。

「この箇所で疑問点や分かりにくいところがありますか?」ーこれは必ず聞いてあげるべき。

「この箇所は私たちにどんなメッセージを伝えていると思いますか?」「これにどう反応したいですか?」

補足: イエスの誕生はBC4~6年、ヘロデ大王の治世(BC37~4)の頃、母マリヤが処女のうちに、聖霊によっ
て胎に宿り、ベツレヘムで生まれた。公生涯はAD28/29から始まり、ユダヤの総督がポンテオ・ピラト、ガリラヤの
領主がヘロデ・アンテパスの頃、AD30or33に十字架に架けられた。生きた時代のローマ皇帝はアウグストゥス(B
C27~AD14)、ティベリウス(AD14~37)だった。このようにイエスは実際に歴史の中に人として生きられました。



APPLY that to life:

結論:「イエスは神であり人でもありました。そして人として多くの苦しみを経験しました。だから彼は私達の悩みや
苦しみも知っているし、私達も彼を心から信頼することができます。」

適用:「イエスに信頼するのを妨げるものにどんなものがあるでしょう?」

「イエスさまをもっと信頼するために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」

祈り:「やってみたいアクション」を分かち合い祈りあう。

Christ

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- ミニディスカッションで、分かち合うための個人的な話を用意した。

HEAR

今回使う箇所・箇所を選ぼう。

- ルカ23章32～48
 1. もしあなたがイエスの横で十字架につけられた罪人だとしたら、イエスに対してどのように言いますか？
 2. イエスの十字架の死が、あなたの罪の身代わりに死にあなたの全ての罪が赦されるためだったとしたら、あなたはその十字架による赦しを受け取りたいですか？
- ヨハネ8:1～11
 1. どうして人々は石を投げずに去っていったのだと思いますか？あなたならどうしますか？
 2. どうしてイエスは女性を罪に定めなかったのだと思いますか？
- ローマ5:6～9
 1. なぜキリストは死ななくてはならなかったのですか？
 2. 私たちに罪による刑罰からの救いの道を与えられた神の動機は何だったと思いますか？神さまからのこのような愛を知ると、私たちと神さまとの関係にどのような影響が出てくると思いますか？
- エペソ2:4～9
 1. ここで繰り返し強調されていることは何ですか？
 2. 恵みと行いの違いとは何だと思いますか？

APPLY

- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。
- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

確認:一人一人調子はどうか、「Apply」はどうだったか尋ねる。

折り:このセッションのために神さまからの知恵を祈る。

導入:『今まで自分の力ではどうしようも無かった状況はありますか?どうやって、誰の助けでその状況から抜け出しましたか?』ミニディスカッション

展開:『今日のテーマは『イエスは救世主。』です。聖書ではイエスが救い主だと語られています。何から救ってくれるのでしょうか?どうして自分の力や努力でなくて救い主が必要なのでしょう?』聖書へー



HEAR what God says: 以下から必要な2~3箇所を選ぶ

ルカ23:32~48>>イエスは弟子のユダによって裏切られ、宗教指導者と群衆によって裁判にかけられ、十字架での死刑を宣告されました。逃げたり、弁明したりせず、自ら十字架に架かりました。十字架は2~3日かけて激しい苦しみと死に至る恐ろしい死刑の方法でした。丈夫なはずのイエスが6時間ほど(朝の9時から15時ぐらい)で息絶えたのは、十字架の前に鞭打ち刑ですでにボロボロになっていたからです。イエスは、裏切られ、嘲られ、辱められ、傷つけられ、そして殺されました。

ヨハネ8:1~11>>女はユダヤの律法を破り、その結果死に直面しました。当時の文化で、姦淫の刑罰は石打ちによる死刑(申命記22:22~23)でした。律法学者とパリサイ人はイエスが死刑を宣告した場合、その権限を持つローマ帝国への挑戦として告発しようと企んで、イエスの前に女を連れ出しました。人々がその場を離れイエス一人が残されたことは、イエスは罪がないことを表しています。

ローマ5:6~9>>罪に対する神の究極的な刑罰は霊的な死、神からの永遠の分離です。ところが、イエスの死は私たちの罪のための身代わりだったということです。私たちが罪人(つみびと)なので、イエスは私たちのために十字架上で死なれました。イエスは罪を犯しませんでした。だから傷も臍れもない贖いの子羊として、私たちの罪をその身に負うことができました。

エペソ2:4~9>>この箇所では、神の愛とあわれみの故に、神が救い主としてイエス・キリストを送ってくださったということを見ることができる。私たちは、もはや罪の中に死んではおらず、かえって、新しいいのちを持っています。これは、神の恵み(一方的な親切)の行為であり、私たちの側のよさや行いによるのではない。

- ・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
- 「この箇所で疑問点や分かりにくいところはありませんか?」←これは必ず聞いてあげるべき。
- 「この箇所は私たちにどんなメッセージを伝えていると思いますか?」「これにどう反応したいですか?」

補足: Christはギリシャ語でキリスト、ヘブル語でメシア(油注がれた者)という意味です。イエス・キリストとは、イエスこそが救い主である、という信仰告白を意味しています。イエスが殺された時間は過ぎ越しのために生け贄の子羊をほふる日の(ニサンの月の14日)まさにその時間でした。このことはイエスが人々の罪の身代わりの犠牲として、十字架にかけられたことを意味します。



APPLY that to life:

主題:「人はその罪の故に神様から離れて、永遠の滅びの中にいます。自分の正しさは罪の解決にはなりません。イエスは私たちの罪のために死んでくださいました。それによって罪と滅びの中から救い出され、私たちは神さまとの親しい関係をもてるようになりました。」ここで、KGPを談むのもいいかもしれない。

適用:「あなたがイエスを救い主として受け入れるのを妨げるものにどんなものがあるでしょう?」「あなたがイエスを救い主として信頼するために、今週できるアクションを一つあげてみましょう。」

折り:「やってみたいアクション」を分かち合い折りあう。

Friend

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- ミニディスカッションで、分かち合うための個人的な話を用意した。

HEAR

今回使う箇所・質問を選ぼう。

- ヨハネ15:12~15

1. イエスの言う友とはどのような友でしょうか？
2. イエスは私たち(文脈では弟子達)を友と呼びました。なぜそのように言えたのでしょうか？

- ルカ19:1~10

1. ザアカイはどのような人でしたか？
2. ザアカイはどうして大切にしていたお金を手放してもいいと思ったのでしょうか？

- 黙示録3:20

1. 「戸」や「食事をする」とはどのような意味だと思いますか？
2. イエスが心の戸をノックし、呼び続けているとしたら、あなたはその戸を開きたいですか？

APPLY

- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。
- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

確認:一人一人調子はどうか、「Apply」はどうだったか尋ねる。

折り:このセッションのために神さまからの知恵を祈る。

導入:「もしマイケル・ジョーダンやビル・ゲイツが友人だったらどうでしょう?彼らと友人ならきつと毎日が信じられないほど楽しいでしょう。もし友人になれるとしたら誰と友人になりたいですか?」ミニディスカッション

展開:「今日のテーマは『イエスが友である。』ということです。イエスキリストを知ること、宗教的な儀式や形式を熱心にするのは、まったく別のことです。ではどんな友人関係なのでしょう?」聖書へー



HEAR what God says: 以下から必要な2~3箇所を選ぶ

ヨハネ15:12~15>>イエスはすでに私たちのために命を投げ出して死んでくださいました。(ローマ5:8)だから彼は私たちを友と言うことができます。

ルカ19:1~10>>収税人はユダヤ人から税を取り、ローマに納める仕事をしていました(多くの収税人は必要以上に多くの税を取り貯めこんでいたため金持ちでした)。イスラエルを支配するローマの手下としてひどく嫌われ、裁判での証言の権利がなく、収税人にたいしては嘘をつく事すら赦されていました。彼らはお金はあっても、心は欠けただけでした。

黙示録3:20>>「戸」は「私たちの心のとびら」、(当時の文化では)「食事をする」は「友になる」、ということを表しています。イエスは戸の外に立って戸をたたき私たちを呼び続けています。しかし取っ手は外側にはありません。内側から私たちが自分の意思によって彼を迎え入れるしかないのです。

・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。

「この箇所で疑問点や分かりにくいところはありませんか?」-これは必ず聞いてあげるべき。

「この箇所は私たちにどんなメッセージを伝えていていると思いますか?」「これにどう反応したいですか?」

補足:よくキリスト教は宗教ではないと言われます。その根拠として神様との個人的な関係があげられます。自分の創造主を知って、関係を持ち、楽しみ喜んで生きることがキリストの教えでした。聖餐式や洗礼といった宗教行事も少しはありますが、それは神様の恵みを思い出し覚えるためのもので、フォーカスはやはり神様との関係にあります。



APPLY that to life:

結論:「イエスさまは私たちの友になることを望んでいます。それも無条件で、相手のために命を投げ出すほどの愛を持った友人です。」ここで、KGPを読むのもいいかもしれない。

適用:「あなたがイエスを友として信頼し友人関係をスタートするのを妨げるものにどんなものがあるでしょう?」「イエスに信頼するために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」

折り:「やってみたいアクション」を分かち合い祈りあう。

人々が霊的に成長し始めることと倍加することを助ける (How to Help People Begin to Grow Spiritually and Multiply)

4Walks

神さまをもっとよく知り、神さまとの関係をスタートできるように助ける。

1. ASSURED(確信して歩む)
: 神さまとの個人的な関係に確信を持つ。
2. FORGIVEN(赦されて歩む)
: 神さまの赦しを体験でき、それ故、神さまと親しい関係を持てることを確信しよう。
3. FILLED(満たされて歩む)
: 聖靈に満たされることができ、生きてゆくための力を得ることができると確信しよう。
4. CONTINUALLY(絶え間なく歩む)
: いつも神さまと交わり続けよう。

4Talks

生活における新しい習慣を身につけていくために神さまを信頼してゆくように助けよう。彼らと神さまの関係がどのようなものであるか、また、神さまの力や知恵を用いることができるようにされていることを教えよう。

1. APPLY the Bible(神さまに語っていただく)
: 聖書から学んだことを生活に日々適用しよう。
2. PRAY(神さまに話す)
: いつでも神さまに相談して物事を解決していこう。
3. WITNESS(ノンクリスチャンに話す)
: キリストについての言葉が、ノンクリスチャンの友だちや知り合いに拡がっていくようにしよう。
4. FELLOWSHIP(クリスチャンに話す)
: 支援と励ましを得るために、心からイエスに従っている人たちとの親しい関係を築こう。

4Ministries

他の人たちに仕えるために大切ないくつかの方法について理解できるように助ける。それによって、彼らは神さまが彼らに託したものを次の人々に手渡していくことができるでしょう。

1. LOVE(愛)
: 神さまは、私たちが人々を愛し、そのニーズを満たし、彼らの人生にインパクトを与えるように願っています。
2. WIN(届く)
: 私たちは、人々が神さまを知ることができるよう助けることができます。
3. BUILD(弟子として育成する)
: 私たちは、人々が真にイエスに従っていく人になるようその成長を助けることができます。
4. SEND(参加する)
: 私たちは、イエスに従う人々が他の人々に仕えることができるように助けることができます。

クリスチャンが続けて成長し倍加することを助ける (How to Help Christians Continue to Grow and Multiply)

4Facts

イエス・キリストに関するいくつかの大切な事柄を知って、彼らがキリストに適切に応じることができるよう助ける。

1. GOD
: イエスは神さまです。それで私たちは彼を敬い彼の言うことに耳を傾けるべきです。
2. MAN
: イエスは人でもありました。それで私たちは彼が私たちの問題を理解できると期待できるし、彼をより信頼することができます。
3. SAVIOR
: イエスは私たちの罪のために死にました。それで私たちは神さまとの親しい関係を持てるのです。
4. SERVANT
: イエスは人々を助け仕える地上生涯を送られ、同じように生きるよう私たちに求めておられます。

4Helps

超自然的な生活ができるよう助けるために、聖霊が与えられていることを理解する。

1. POWER
: 毎日の生活は本当に大変でしょう。でも聖霊は私たちに力を与えてくださいます。
2. TRUTH
: 時に、霊的には何が真実なのか判断するのが難しい時があります。でも聖霊はそこに光をあてて教えてください。
3. PEACE
: 時に、いろいろなことで私たちの感情はいつぱいいつぱいになってしまいます。でも聖霊は私たちに平安を与えてくださいます。
4. WORDS
: 人々に仕える際、何と言ってあげたらいいのかわからない時があります。でも聖霊は私たちに言葉を与えてくださいます。

4Attitudes

父なる神さまに関する見方を変えていくために、彼を信頼していけるよう助ける。

1. TRUST
: あなた自身ではなく神さまを信頼しましょう。
2. LOVE(届く)
: 全身全霊で神さまを愛し礼拝しましょう。
3. OBEY(弟子として育成する)
: 神さまが喜んでくださることをしましょう。
4. USE(参加する)
: 神さまから与えられているものを、神さまの目的のために上手に使いましょう。

セッションの導き方

まず、最初のセッションを準備するために、パート1の16と17ページにある、セッション準備チェックリストと、グループ・ディスカッション・アウトラインを見てください。ここが、4walks の最初のトピックである「確信して歩む」に関連しています。各セッションには、以下で説明される4つの部分があることに注意してください。

CONNECT : 一人一人がどんな様子か探った後、折って、人生についての簡単な真理:「人との関係は、受容と信頼によって育まれます」を述べます。おそらく、あなたは、そしてあなたのグループのメンバーも、そのような経験をしたことがあるでしょうから、それぞれの体験について分かち合うのは難しくありません。分かち合いの後、「神さまとの関係においても同じ事が言えます。」と言って、聖書を読む方へと、簡単に移ってください。

HEAR : 一回に、一つの聖書箇所を取り、ただこう聞いてみてください。「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか?」しばらくディスカッションした後、次の2つの質問をしてください。「神さまについて、また神さまへの応答として、何を学べるでしょう?」「この時間の最初にディスカッションしたトピック『人との関係は、受容と信頼によって育まれます』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか?」

または、セッション準備チェックリストにある、代わりに質問を使うこともできます。これらの具体的な質問は、セッションで使うそれぞれの聖書箇所のために備えられています。例えば、初めの聖書箇所(ルカ 15:11-24)をディスカッションしている時なら、以下の三つの質問を使うことができます。

- 1、父親が、放蕩息子を愛し受け入れているという証は何かですか?
- 2、息子の考えや行動で、父親の愛や受容を反映しているのは、どのようなところでしょうか?
- 3、この例え話から、人間関係について、どんなことを学べるでしょうか?

ディスカッションを導いている時、あなたはメンバーたちに、彼らが知る必要のあることをただ伝えているのではなく、学んでゆく過程に取り組みさせようとしていることを覚えてください。そのことを考慮して、質問を続け、彼らの答えに熱心に耳を傾けて、しばしば「他のみんなはこれについてどう思う?」と聞いてみてください。みんなが黙ったままなら、いつも、何か発言してくれる人を指名しましょう。もしメンバーたちがしばらく静かになまなまなら、何か付け加えたいことはあるかどうか聞いてみてください。

あなたのグループメンバーたちが、この真理を、自分と神さまとの関係に、どう役立てることができるかと本当に分かったかどうかを、感じ取ろうとしてください。(そのことを達成するために、全ての聖書箇所をディスカッションしたり、質問を全部用いなければならない、というわけではないことを、心に留めてください。)APPLYへ移る一つの方法は、これまでの流れをおさらいすることです。「私たちは、人との関係は受容と信頼によって育まれることに同意しました。そして、神さまが私たちを受け入れてくれていることを見ました。けれども、神さまからの受容を確かなものとして感じることができなければ、この真理は助けにならないでしょう。

APPLY : 上記のようにおさらいする中で、「あなたと神さまとの個人的な関係に確信をもつこと」がとても大切だと述べてください。言い換えるなら、もしキリストを救い主として信頼しているならば、神はあなたを愛し受け入れていると、聖書は教えているのです。

65 ページにある、ミニジャーナルの「学んだこと」の空欄に、メンバーたちに書き出させてください。(セッション前に4walksのミニジャーナルを、メンバーの人数分、コピーしておく必要があります。)

もちろん「学んだこと」は、メンバーたちが自分の生活に適用してはじめて、大きな助けとなります。それが次の段階です。「神さまとの個人的な関係にときどき確信が持てないのはなぜでしょう?」と質問してください。言い換えれば、私たちは神さまに受け入れられていると聖書が教えているのに、なぜそう感じられないことがあるのでしょうか?

ディスカッションでそれぞれの障害などが表面化してきたら、メンバーたちは次の質問に答えやすくなるでしょう。「もっと確信を持ち始められるために、今週できるアクションが何か一つありますか?」あるアクションステップは、このようでしょう。「神さまが私を愛し受け入れてくれていることに感謝の祈りを、今週、毎日します。」もし、グループメンバーの誰かがまだはっきりキリストを受け入れていないようだったら、17ページにもあるように、ここでKGPを読むのが良いでしょう。

グループメンバーに(個人的に)、このレッスンをどのように適用できるか、具体的なアクションステップを考える時間をあげてください。ミニジャーナルの「やってみたいアクション」に書かせ、一人か二人のグループメンバーとそれについて話し合ってください。その後、もし、自分のグループメンバーが声を出して祈ることはまだできないというのであれば、それぞれのアクションステップのために互いに祈り合ってください。

TELL : 終わりに、このセッションで学んだことを(グループ外の)誰かに、話すよう計画しましょう。その相手はクリスチャンでも、興味がある別の人でもいいです。誰かに話し続けていれば、そのメンバーは「やってみたいアクション」を実行することにおいて、劇的に進歩するでしょう。そしてそのことは、彼らが、聖書から話し合い、適用したことを他の人に分かち合うことによって、霊的倍加のプロセスの一部となり始めることにもなります。(2テモテ2:2を思い出して下さい。)ミニジャーナルの「話すべき相手」を書かせ、一人か二人のグループメンバーと分かち合い、互いの為に祈ってください。(もう一度言いますが、もしかしたら、互いに祈りあうことに抵抗がなくなるまでには、一回か二回のセッションを終える必要があるかもしれません。)

翌週、グループセッションを始めるときに、先週の「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうだったかを分かち合ってくれるメンバーがいるかどうか、さりげなく聞いてみてください。

さあ、どうでしょう、そんなに難しくないでしょうか? 次のセッションでは、(18と19ページを見ながら)「教されて歩む」を同じやり方で進めてください。また、71と72ページの付録に、セッション準備チェックリストの使い方についてさらに説明してあるので、参考にしてください。

MULTIPLY : 数週間後、あなたのグループの中で、今あなたがやっていること、つまり自分自身のグループを導きだしている人がいるかどうか、見てください。特に、忠実に出席し、ディスカッションや、適用、分かち合いに、わくわくしている人を探してください。(毎週毎週「話すべき相手」になってくれている人が、その人の新しいグループに入りがっているかもしれません。)

新しいグループを導きだしている人に、グループリーダーが、主との歩みにおいて成長してゆくことがどれほど大切か話してください。習慣的な罪は、神さまを深く悲しませ、グループメンバーのその人に対する信頼性を土台からくずすでしょう。神さまについて他の人々に教えることは特権であると同時に、身の引き締まる責任なのです。

それでも、その責任を喜んで全うしたいと思う人がいるならば、この「エッセンシャルズ」を一冊あげて、一緒に見て、質問があれば答えてあげましょう。もし可能なら、あなたのグループセッションの一部(あるいはそのセッション全部)を、その人に導いてもらいましょう。終わったら評価してあげ、その人がまだあなたのグループに出席し続けている間に、新しくその人自身のグループを始める準備ができるようにしてください。

今、あなたは真剣に霊的倍加の一部になろうとしています。神さまがあなたを使い、まず、最初のグループを始められたことによって、そこから他のいくつかのグループができるようになるまでに、あまり長くかからないかもしれません。そうすることで、神さまがあなたを通して、あなたの大学にキリストのインパクトを与えてくださるでしょう。

Walk Assured (確信して歩む)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEARにいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

ルカ15:11~24

1. 父親が、放蕩息子を愛し受け入れているという証拠は何でしょうか？
2. 息子の考えや行動で、父親の愛や受容を反映しているのは、どのようなところでしょう？
3. この例え話から、人間関係について、どんなことを学べるでしょうか？

Iヨハネ5:11~13

1. 永遠のいのちの源について、この箇所はどんなことを教えてくれるでしょうか？
2. この箇所は、読み手にどのようなインパクトを与えることを意図されて書かれたと思いますか？そしてそのインパクトは、神さまとの関係においてどんな助けになるでしょう？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- ・一人一人がどんな様子が探る。
- ・このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- ・次のように言って始める。
「人との関係は、受容と信頼によって育まれます。」

そのあとで、体験を出してみる。

- 「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
- 「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」

- ・次のように言いながら聖書に移る。
「神さまとの関係においても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- ・このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)

- ・選択:ルカ15:11～24(ストーリー)、Iヨハネ5:11～13

・解説:ルカ15:11～24>>これは放蕩息子のお話です。父親は神さまを表しています。反抗的な息子は、私たちが時々神さまに対して見せる態度を表しています。明らかに父親は、息子が戻ってくるのではないか、という希望を持ちながら、道を見続けていました。彼は激しい情熱をもって息子に走り寄り、彼の帰宅をお祝いしました。この様子から、神が私たちを愛し、受け入れ、親密な交わりを持ちたいと願っておられることを、確信することができます。Iヨハネ5:11～13>>(神とともにある)永遠のいのちを持っているかどうかはキリストを受け入れるかどうかでわかるということをおこれらの箇所は単純に明らかにしています。

- ・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか?」「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう?」「この時間の最初にディスカッションしたトピック『人との関係は、受容と信頼によって育まれます。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか?」



APPLY that to life:

- ・次のように主題を述べる。
「あなたの神さまとの個人的な関係に確信をもってください。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- ・話し合ってみる。
「神さまとの個人的な関係にときどき確信が持てないのはなぜでしょう?」
「もっと確信がもてるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- ・具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。
最後に互いに祈らせる。
- ・ここで、KGPを読んでみることでもいいかもしれない。



TELL someone they know:

- ・今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- ・「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- ・数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Walk Forgiven (赦されて歩む)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- ルカ7:36～50
 1. 宗教指導者たちの罪深い女に対する見方は、イエスの彼女に対する見方とどのように違いますか？
 2. イエスが「負債取り消し」の例を話し、それを宗教指導者と女の態度に当てはめる箇所(40-47節)から、私たちは何を学ぶことができますか？
 3. 自分の罪が赦されたと聞いたとき、彼女はどんなインパクトを受けたと思いますか？
- Iヨハネ1:9～2:2
 1. 人は罪を犯す、ということに同意しますか？何によってその結論に至りましたか？
 2. この箇所によると、私たちの罪の問題の解決策は何だと言っていますか？その解決策を利用するために、私たちは何をしなければなりませんか？
- エペソ3:11～12
 1. どのような点で、キリストを信じる私たちの信仰が、私たちの神さまとの関係にインパクトを与えますか？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言って始める。
「赦しは、人との関係にすがすがしい再スタートを与えてくれます。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
「神さまとの関係においても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択: ルカ7:36~50(ストーリー)、Iヨハネ1:9~2:2、エペソ3:11~12 (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説: ルカ7:36~50>>この話は、イエス、罪深い女、そして自分を義としている宗教指導者の間のやりとりです。イエスは、自分の罪のために悲しんでいる女を見て、彼女の罪を赦しました。このことは、あなたのグループの中で、たくさん悪いことをしてきて神さまは永遠に自分を赦してくれないだろうと感じている人の励みになるでしょう。Iヨハネ1:9~2:2>>この箇所は、私たちが自分の罪を神さまに告白すべきであるということを明確にしています。イエスが私たちの罪の刑罰を支払ってくださったという事実を認める時に、私たちは神さまに赦されている喜びを体験することができます。
エペソ3:11~12>>キリスト(と私たちの罪のためのキリストの死)の故に、私たちは神さまに近づくことができ、神さまと親しい関係を持つことができます。

- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『赦しは、人との関係にすがすがしい再スタートを与えてくれます。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life:

- 次のように主題を述べる。
「あなたは神さまの赦しを体験でき、それ故、神さまと親しい関係を持つことを確信してください。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
「神さまが提供して下さる赦しをときどき体験できないのはなぜでしょう？」
「この赦しを体験するために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- 具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Walk Filled (満たされて歩む)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEARにいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- エペソ3:16~20
 1. 生活の中に御霊の臨在があるのなら、信じる者にはどのような益がもたらされるでしょう？
 2. そのような力や神の愛がどれほど自分に注がれているのかわかるとき、私たちの日常生活にどう影響しますか？
- エペソ5:18~21
 1. 聖霊に満たされた結果、どんな態度やふるまいが見られますか？
 2. これらの態度やふるまいは、普段の人間行動とどう違いますか？
- ヨハネ18:15~18 と 使徒2:14~22
 1. ヨハネ18章と使徒2章のペテロではどんな変化が見られますか？
 2. 何がペテロをここまで変化させたのでしょうか？
- 注：明らかに聖霊は人生のむずかしい課題に確かな助けを与えてくださる。

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言ってみる。
 - 「むずかしい問題には助けを必要とするのが普通です。」
- そのあとで、体験を出してみる。
 - 「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
 - 「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
 - 「神さまとの関係においても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択: エベソ3:16~20, エベソ5:18~21, ヨハネ18:15~18と使徒2:14~22(ストーリー)のペテロ比較 (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説: エベソ3:16~20>>ここは、神が聖霊の力を通してどれだけ私たちに助けたいと願っておられるかがわかる、驚くべき箇所。
エベソ5:18~21>>この箇所は、聖霊に満たされなさいという命令と、その結果起こる劇的な変化について書かれている。
- ヨハネ18:15~18と使徒2:14~22>>ここでは、たった数週間のうちに驚くべき変化を遂げたペテロの姿を見ることが出来る。聖霊に満たされる前、ペテロはキリストを否定した。しかし、聖霊に満たされた後は多くの群衆の前で力強く神のこぼを語っている。
- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
 - 「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
 - 「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
- この時間の最初にディスカッションしたトピック『むずかしい問題には助けを必要とするのが普通です。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life:

- 次のように主題を述べる。
 - 「あなたは聖霊に満たされることができ、生きてゆくための力を得ることが出来ることに確信をもってください。」
 - 「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
 - 「ときどき聖霊の力によって歩むことを求めないのはなぜでしょう？」
 - 「聖霊の力によって歩むために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- 具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- ここで、「御霊のブックレット」を読んでみることもいいかもしれない。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに興味をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Walk Continually (絶え間なく歩む)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- ビリビ4:4~9

1. この箇所で神さまとの関わりについて語られている特別なトピックにどんなものがあるでしょう？
2. 神さまとのそのような関わりから生じる肯定的な結果はどのようなものですか？

- 詩篇16:8~9

1. 「私はいつも、私の前に主を置いた。」という箇所から、ダビデ王の歩みの中にどのような肯定的な結果が見られるでしょうか？
2. この箇所から神との歩みに関して何を教えられますか？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- ・一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- ・このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- ・次のように言ってみる。
 - 「頻繁に交流することが、人間関係に大きく貢献する。」
- ・そのあとで、体験を出してみる。
 - 「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
 - 「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- ・次のように言いながら聖書に移る。
 - 「神さまとの関係においても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- ・このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- ・選択:ピリピ4:4~9、詩篇16:8~9
- ・解説:ピリピ4:4~9>>この聖句は、とても頻繁な神さまとの交わりに対する励ましが含まれている。例:「いつも喜んでいなさい。」「あらゆる場合に…あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」
- ・詩篇16:8~9>>この聖句は、ダビデの祈りの生活への洞察を与えてくれている。「私はいつも、私の前に主を置いた。」
- ・**このディスカッションの際、一日の歩みの中で神がどれほど頻繁にグループメンバー一人一人に神ご自身と会話をしてもらいたいと願っているかということに気付かせる。

- ・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
 - 「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか?」
 - 「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう?」
 - 「この時間の最初にディスカッションしたトピック『頻繁に交流することが、人間関係に大きく貢献する。』ということと、この箇所はどのように関連していると思いますか?」



APPLY that to life

- ・次のように主題を述べる。
 - 「常に神さまと交わり続けてください。」
 - 「ミニジャーナルに「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- ・話し合ってみる。
 - 「神さまと絶えず交わりを持たないのはなぜでしょう?」
 - 「もっと頻繁に交わりを持ち始めるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- ・具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- ・今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- ・「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- ・数日中にその人たちに分かち合うように励ます。
- ・次の4つのセッションがどんなに役だつたか話す。(「4 Talks」のページを見る。)

Apply the Bible (Let God Talk to You)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

ヤコブ1:22

1. この箇所は、先ほど論じたディスカッション(「聞くこと」と「行うこと」と)、どんな関係がありますか？

ルカ6:46~49

1. これと似た話で、最近起こったことで見たり、聞いたりしたことはありますか？(例:台風が地盤が悪い地域に建つ家や、基礎が十分でなかった家を襲った時の出来事)

2. このイエスさまの例話から、学ぶことができる教訓をいくつかあげてください。

使徒2:41~47

1. 新たにクリスチャンになった人たちは、どのようなことをしていますか？

2. 彼らが学んだことを、どのように彼らの生活に適用しましたか？

注:(APPLY にある)主題を述べるころに移る時、聖書にあるイエスの教えや、弟子たちの教えが、今日でも十分適用できるということを指摘してください。それ故、私たちは、聖書から学んだことを生活に適用する必要があるということをこのディスカッションから理解します。

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン

CONNECT with needs:

- ・一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうかたがひで尋ねる。
- ・このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- ・次のように言って始める。
「聞くことと行うことは別物です。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- ・次のように言いながら聖書に移る。
「クリスチャンライフにおいても同じ事が言えます。」

HEAR what God says:

- ・このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- ・選択: ヤコブ1:22、ルカ6:46~49(ストーリー)、使徒2:41~47(ストーリー) (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- ・解説: ヤコブ1:22>>この箇所は、聖書から学んだことを、生活に適用すべきことが明確に書かれています。
ルカ6:46~49>>イエスは、彼が語ったことを実行に移すことが、いかに価値あることであるかを語っています。そうすることで、私たちの人生に、強固でしっかりとした土台を据えることとなります。
使徒2:41~47>>この箇所は、ペテロの説教の後、多くの人々がキリストに回答した際のエルサレム教会の模範を、私たちに示しています。もしこのトピックでこの箇所を用いるならば、交わりの喜びよりも、むしろ使徒たちの教えを堅く守る、新しいクリスチャンの献身の姿に、強調点を置くべきです。(この箇所は、4 Talks Fellowshipのセッションで用いるように取っておくことを考えてもよいでしょう。)
- ・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『聞くことと行うことは別物です。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」

APPLY that to life:

- ・次のように主題を述べる。
「聖書から学んだことを生活に日々適用してください。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- ・話し合ってみる。
「聖書から学んだことをときどき適用しないのはなぜでしょう？」
「毎日の生活に聖書を適用し始めるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- ・具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。

TELL someone they know:

- ・今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- ・「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- ・数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Pray (Talk to God)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- 1 列王記3:5~14

1. 神さまと会話することについて、ソロモンの例は私たちにどんなことを教えていると思いますか？
2. このことは、私たちが普段思っている「祈り」とどう違いますか？

- ネヘミヤ1:4~11

1. ネヘミヤの例から、私たちの心配を神さまに分かち合うことについて、どんなことを学ぶことができますか？
2. このことは、友達に相談することで解決する、という先ほど話したディスカッションとどう関係するでしょうか？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- ・一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうかあったか尋ねる。
- ・このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- ・次のように言って始める。
「多くの人は、友だちに相談することで物事を解決しようとしています。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- ・次のように言いながら聖書に移る。
「クリスチャンライフにおいても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- ・このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- ・選択: I 列王記3:5~14(ストーリー)、ネヘミヤ1:4~11(ストーリー)
- ・解説: I 列王記3:5~14>>ソロモンの王は(夢を通して)神さまと会話した。このやりとりの中に、対話、つまり「相談して解決する」姿を見ることができる。このことから、祈りというのはまさしく神さまと会話することだ、ということができる。
ネヘミヤ1:4~11>>ここは、より一般的な祈りの体験の箇所、ネヘミヤは神さまの声を直接聴きはしなかった。しかしこの箇所もまた、特別な心配事に関して嘆願しながらネヘミヤがどう神さまに相談することで解決しようとしていたかを見せてくれている。
- ・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『多くの人は、友だちに相談することで物事を解決しようとしています。』と、いうことと、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life

- ・次のように主題を述べる。
「いつでも神さまに相談することで物事を解決してください。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- ・話し合ってみる。
「神さまに相談することで物事を解決しようとしなくなってしまう傾向があるのはなぜでしょう？」
「それがもつとできるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- ・具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- ・今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- ・「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- ・数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Witness (Talk to Non-Christians)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- マタイ28:18~20
 - イエスさま弟子たちに何をしよう命じたのでしょうか？
 - このことが弟子たちに伝えるほど大切なことだとイエスさまが考えたのはなぜだと思いますか？
 - 現代でも、私たちがこれと同じことをするのが重要なのは、なぜだと思いますか？
- ヨハネ4:19~41
 - イエスさまは耳を傾けるべき重要人物だと、井戸にいた女は結論づけたと思いますか？それはなぜですか？
 - この一人の女性の「証言」がどのような結果をもたらしましたか？
- 使徒4:1~13
 - ペテロとヨハネが「キリストを証した」ことで、どのようなリスクがあったと推測しますか？
 - このようなリスクにもかかわらず、信仰を分かち合う際のメッセージの明快さや大胆さは、どのように見受けられたでしょうか。

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言って始める。
「言葉は人が他の人に話すことでひろがっていくのが普通です。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
「クリスチャンライフにおいても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択: マタイ28:18~20, ヨハネ4:19~41(ストーリー), 使徒4:1~13(ストーリー) (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説: マタイ28:18~20>>イエスさまは私たちに、可能な限り広範囲で福音を他の人々に伝えるよう、熱心に勧めました。イエス・キリストのメッセージを知ることで、私たちは福音を他の人々にも分かち合うようにならなければなりません。
ヨハネ4:19~41>>これらの箇所は、ひとりの女性の証言が彼女の町全体に大きなインパクトを与えたことを見せてくれます。
使徒4:1~13>>この箇所には、エルサレムの宗教指導者たちに対して、キリストだけに救いがあると、ペテロがどのように宣言したのかが書かれています。宗教指導者たちはペテロの大胆さに驚きあきれました。

- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『言葉は人が他の人に話すことでひろがっていくのが普通です。』というところ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life

- 次のように主題を述べる。
「キリストについての言葉が、ノンクリスチャンの友達や知り合いに拡がっていくようにしましょう。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
「ノンクリスチャンにキリストについて話す時どんなバリエーションがありますか？」
「キリストを知らない人と霊的な話をするために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Fellowship (Talk to Christians)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- ヘブル10:24~25
 1. 他のクリスチャンと集まることにはどんな益がありますか？
 2. クリスチャンの交わりの中でそのような体験をしたことがありますか？
 - 使徒2:42~47
 1. この箇所から新しいクリスチャン達がよく会い、よくつながっていた証拠となることとして何があげられますか？
 - 使徒1:12~15
 1. キリストが天に昇天された後、クリスチャン達は何をしましたか？
 2. どうして彼らは集まったのだと思いますか？
- 注:あなたのグループのメンバーが定期的に見えるようにしてください。そしてその中でサポートや励ましがあるようにしてください。グループのメンバーがその面においてどうしているか聞くのもいいでしょう。

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言って始める。
「支援と励ましは、友人関係からやってきます。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
「クリスチャンライフにおいても同じ事が言えます。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択: ヘブル10:24~25、使徒2:42~47(ストーリー)、使徒1:12~15(ストーリー) (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説: ヘブル10:24~25>>この箇所は、私たちクリスチャンに対して、定期的集まり、励ますことの重要性を教えてください。
使徒2:42~47>>この箇所は、キリストを知ってからの、クリスチャンたちの日々の親しい交わりについて描かれています。彼らは互いに愛し合い、互いに献身し、互いの存在を喜んでいました。(もしかするとあなたはすでにこの聖書箇所を3つ前のセッション、4Talks-Apply the Bible で用いているかもしれない)
使徒1:12~15>>この箇所は、キリストが昇天されて後、11 弟子とその他の人々が祈りと励ましのためによく会っていたことを記録しています。

- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『支援と励ましは、友人関係からやってきます。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life

- 次のように主題を述べる。
「支援と励ましを得るために、心からキリストに従っている人との親しい関係を作ってください。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
「クリスチャンたちと親しい関係を築こうとするのを妨げるものはなんでしょう？」
「これらのバリエーションを乗り越えるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
「数日中に『やってみたいアクション』を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。
- 次の4つのセッションがどんなに役だつか話す。(「4 Ministries」のページを見る。)

Love

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- ヨハネ13:34~35

1. 自分と同じクリスチャンを愛することで、私たちがキリストの弟子であることが世の人々に伝えられるそうですが、どうしてでしょうか？

- ルカ10:25~37

1. この箇所から、「あなたの隣人を愛する」ことの意味について、何を教えられますか？

2. このことと、さきほどのディスカッション、また「私たちの人生にインパクトを与えるのは私たちが愛してくれる人々だ」ということとどう結びつくでしょうか？

- I コリント13:4~8

1. この箇所にあるような具体的な、自己中心でない方法で愛を受けた体験を分かち合ってください。

2. ここで述べられている本物の愛と、この世が教える愛とを比較すると、どういう点で違いがありますか？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうかたか尋ねる。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言って始める。
「人生にインパクトを与えてくれるのは、私たちを愛してくれた人たちです。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」「みなさんの体験も分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
「人々に仕えていきたいなら、まずは愛することから始めなければなりません。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択: ヨハネ13:34~35、ルカ10:25~37(ストーリー)、I コリント13:4~8(8節は最初の「愛は決して絶えることがありません。』)だけでいい。)(この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説: ヨハネ13:34~35 > この箇所は私たちに愛するよう命じている。私たちが他人をどのように愛するかによって、人々は私たちがキリストに従う者だとわかるのである。
ルカ10:25~37 > この良きサマリア人のたとえは、見ず知らずの人を愛することに関する話である。ある人が強盗に殴打され持ち物を剥ぎ取られて道端に放置されてしまった。祭司と宗教指導者が通りかかったが、助けようとはしなかった。そしてサマリア人がこの人を見て、宿に連れていき看護のための必要額を全部支払った。主イエスの時代、サマリア人は見下され、受け入れてもらえなかったのである。このたとえ話で主イエスは、愛とは差別することなく必要を満たしてあげることなのだと伝えている。
I コリント13:4~8 > この聖句は愛を定義づけている。他人をどのように愛するかを知る必要に迫られたことが一度でもあるなら、この聖句こそふさわしい。

- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『人生にインパクトを与えてくれるのは、私たちを愛してくれた人たちです。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life

- 次のように主題を述べる。
「神さまは、私たちが人々を愛し、そのニーズを満たし、彼らの人生にインパクトを与えるように願っています。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
「ほかの人々を愛そうとするのをさまたげるものにどんなものがあるでしょう？」
「もっと確信がもてるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- 具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに興味をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Win (Reach)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- 使徒1:8
 - [注:使徒1:8の出来事は、イエスさまが弟子たちを離れて、天に昇られる直前に起こったことだと説明しましょう。]
 - この事実を照らしあわせてみると、最後の印象として弟子たちに残したかった、イエスさまの心にあつた一番大きなものはどんなことだったと思いますか？
- マタイ4:18~22
 - ペテロやアンデレのような漁師たちは、どんな考えや日々の活動のことで頭がいっぱいだったと思いますか？
 - このことと、イエスさまが彼らに、「人間をとる漁師」のように考え行動するようになると言われたのは、どんな風に比較できると思いますか？
- 注:使徒1:8とマタイ4:18~22の聖句には、私たちは人々が神さまを知るようになるのを助けることができる、また、助けるべきだということが明らかにされています。
- マタイ:5:14~16
 - 他の人をキリストへと勝ち取るというクリスチャンの役割として、「光」ということばが、よいたとえであるのは、どんな点でだと思いますか？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言って始める。
「人々は神さまを個人的に知る必要があります。」
- そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」(あなたの救いの証しをしてもよいでしょう)
- 「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
「神さまは人々を用いて、神さまを個人的に知るにはどうしたらいいのか示してくださいませ。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択:使徒1:8、マタイ4:18~22(ストーリー)、マタイ5:14~16 (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説:使徒1:8>>この聖句では、イエスさまは弟子たちを、地の果てにまで証人として遣わしています。しかし、聖霊の力に満たされるまでは、彼らは始められません。このことは、行って、他の人たちにイエス・キリストを伝えるように命じられて私たちへの適用でもあります。
マタイ4:18~22>>イエスは、最初の弟子たちを、彼らが漁をしている時に召され(呼ばれ)ました。イエスは、もし彼らのご自分に従うなら、「人間をとる漁師」になると言いました。福音を伝えることは、イエスの働き(ミニストリー)の心でした。
マタイ5:14~16>>私たちが、本当にキリストを自分の心に受け入れた時から、私たちは自分の信仰を隠し続けることはできません。神さまは、私たちを通して人々がキリストを見ることができるよう、私たちが光となるように、デザインされ、召され(呼ばれ)ました。

- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『人々は神さまを個人的に知る必要があります。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life:

- 次のように主題を述べる。
「私たちは人々が神さまを知ることができるよう助けることができます。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
「キリストについて話そうとするのを妨げてくるものにどんなものがありますか？」
「キリストを知らない人にキリストのことを分かち合うために今週できるアクションの一つあげてみましょう。」
- 具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Build (Disciple)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

I テサロニケ2:7~13

1. テサロニケのクリスチャンたちの生活を建てあげるために、パウロがやった努力にはどんなことがあったと表現されていますか？[注：方法と同様に、ライフスタイルにも注目してください]
2. パウロの献身と、パウロの意図は、どこから読み取れますか？

II テモテ4:2

1. 注：上の二つ目の質問をディスカッションした上で、次のように言いましよ。「パウロの働きモデルを見てきました。さあ、次は、仕える相手に対するパウロの言葉を見ていきましょう。」
2. この箇所には、パウロのさらなる熱意と意図をどのように見ることができでしょうか？
3. これら2つの聖句からどのようなことを学べますか？

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- ・一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- ・このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- ・次のように言って始める。
「人々は、神さまとの関係において成長する必要があります。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験を分かち合ってください。」
- ・次のように言いながら聖書に移る。
「神さまは人々を用いて、クリスチャンたちの神さまとの関係における成長を助けてくださいます。」



HEAR what God says:

- ・このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- ・選択: I テサロニケ2:7~13(ストーリー)、II テモテ4:2
- ・解説: I テサロニケ2:7~13>>この文章の中で、パウロはテサロニケにある教会との関係について分かち合っています。彼は、両親が子どもに対するように、テサロニケの教会を養い面倒をみてきました。彼はまた、生活を共に分かち合ったとも語っています。弟子訓練は生活を共に体験したときにベストなものとして起こってくるでしょう。
II テモテ4:2>>私たちは神の言葉を他の人に分かち合えるよう備えている必要があります。また、励ましを通してでも、矯正を通してでも、人々を霊的に成長させる助けをする備えができていなくてはなりません。
- ・次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか？」
「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう？」
「この時間の最初にディスカッションしたトピック『人々は、神さまとの関係において成長する必要があります。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか？」



APPLY that to life:

- ・次のように主題を述べる。
「私たちは人々が真にキリストに従っていく人になるようその成長を助けることができます。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- ・話し合ってみる。
「私たちが神さまとの関係において成長しようとするのを妨げるものにどんなものがあるでしょう？」
「ほかの人が神さまとの関係において成長するのを助けるために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- ・具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- ・今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- ・「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- ・数日中にその人たちに分かち合うように励ます。

Send (Involve)

セッション準備チェックリスト

PRAY

- 知恵が与えられるように祈った。
- グループメンバーのために祈った。

CONNECT

- 分かち合うための適切な個人的例話を用意した。
- HEAR にいつどのように移行するかを考えた。

HEAR

今回使う質問を選ぼう。

- ルカ10:1~2
- 1. [人々を派遣することに関して]イエスが使ったプロセスはどのようなものでしたか？
- 使徒11:19~26
- 1. バルナバをアンテオケに派遣するようエルサレムにある教会を動機づけたのは何だったようですか？
- 2. バルナバがサウロの助けを請うため、いくつか遠くへ旅立った明かな動機は何だったようですか？
- 注: ニーズや機会が生まれれば、働きに次々と人々が加わっていくようになることは一般的である、という結論を、これら2つ箇所から、引き出す。
- II テモテ2:2
- 1. ここで起きているプロセスを、あなたはどのように表現しますか？
- 2. 霊的倍加が広がり始めるのを見たときの、パウロとテモテの考えや感情は、どんな言葉で表現できるでしょう？
- 注: 明らかにキリストは、彼についてくる人々が他者にかかわって仕えることを意図されました。

APPLY

- HEAR から APPLY にいつどのように移行するかを考えた。
- 具体的なアクションステップをとれるように促す準備をした。(例を用意した。)

TELL

- そのままではやりたがらない彼らを励まして適用できるようにさせたいと思う。
- メンバーが気軽に「分かち合う」ことを願っている。彼らはじきに自分自身のグループを上手に導くだろう。



グループ・ディスカッション・アウトライン



CONNECT with needs:

- 一人一人調子はどうか探る。また、「やってみたいアクション」と「話すべき相手」はどうか探る。
- このセッションのために神さまからの知恵を祈る。
- 次のように言って始める。
「人々に仕えることにかかわることはやりがいのあることです。」
そのあとで、体験を出してみる。
「このことに関して、わたし自身の体験を話させてください。」
「このことに関して、みなさんの体験、あるいは、どんなことをしてみたいか分かち合ってください。」
- 次のように言いながら聖書に移る。
「たいがい神さまは人々を用いて、クリスチャンたちがミニストリーにかかわるよう動機付けしたり備えをしてください。」



HEAR what God says:

- このトピックに関する次の聖書ストーリーや聖句を読む。(あるいは話す。)
- 選択: ルカ10:1~2(ストーリー)、使徒11:19~26(ストーリー)、Ⅱテモテ2:2 (この中から2つを選べば、このセッションをカバーできるでしょう。)
- 解説: ルカ10:1~2>>イエスは人々を様々な地域に派遣することによってご自分のメッセージをさらに広められた。これらの箇所ではイエスは70人以上の人々を自分よりも先に行かせ、様々な町で福音を分かち合わせている。
使徒11:19~26>>キリストについてゆく者たちは、迫害によって散らされ、福音を広めた。イエス・キリストの使徒バルナバは、アンティオケにある教会を訪ね、彼らの成長に励まされた。それから、彼はパウロを見つけだし、共に、膨大な数の人々に教えた。この話はバルナバがどのようにパウロに影響を与え人々への奉仕に加わるようさせたかを描いている。
Ⅱテモテ2:2>>霊的倍加の描写がここにある。私たちの責任は、学んでいることを他の人々に分かち合い、今度は彼らがそれを他の人々にしていくことである。

- 次の質問や準備チェックリストにある質問を用いて、各聖書箇所をディスカッションする。
「この箇所は私たちに何を教えていると思いますか?」「神さまについて、または神さまへの応答として、何を学べるでしょう?」「この時間の最初にディスカッションしたトピック『人々に仕えることにかかわることはやりがいのあることです。』ということ、この箇所はどのように関連していると思いますか?」



APPLY that to life:

- 次のように主題を述べる。
「私たちはキリストに従う人々を他者に仕えることができるように助けることができます。」
「ミニジャーナル」に「学んだこと」を書き出すようにさせる。
- 話し合ってみる。
「ほかの人々に仕えることにかかわろうとすることを妨げるものにどんなものがあるでしょう?」
「一人のクリスチャンがほかの人に仕えられるように励ますために今週できるアクションを一つあげてみましょう。」
- 具体的に「やってみたいアクション」を書き出すようにさせる。どんなアクションをプランしたか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。



TELL someone they know:

- 今日学んだことに関心をもって聞いてくれそうな人がだれか尋ねる。
- 「話すべき相手」のところに名前を書かせる。誰に話したいか分かち合わせる。最後に互いに祈らせる。
- 数日中にその人たちに分かち合うように励ます。
- パート2にも進むつもりなら、次の4つのセッションがどんなに役立つか話す。